

中国の現状と未来を考える～『白紙世代』の
若者を通して～
—阿古智子先生の講演を聞いて—

私は日中友好協会員として日頃から中国と言う国とは友好関係が築くことができるのだろうかと考え続けています。入会当時からの希望でしたが、中国がいつ民主化が実現するのだろうかと期待をもっていました・・・。

しかし、中国の歴史、文化を少しでも知ったり、中国の政治体制を見たりすると悲観的にならざるを得ない。

中国も国内的にいろいろと難しい問題（経済、教育、農村など）があり、問題をそらせるために、国民に対して国外の問題を意図的に作り目を向けさせているのではないだろうか（尖閣諸島問題、福島汚染水、南シナ海領有権など・・・）

私自身も中国の内実があまり分かっていない。真の友好はやはり相手を知ったうえでの方が良いと思う。ただ単に中国の良いところだけを見ているのでは真の友好関係は築けないのではないか。

そのような時、この度の阿古先生の講演会を聞く機会が与えられた。日本の報道では「コロナ」「白紙世代」など詳しい事は分からなかった。若者が立ち上がったきっかけは人権を無視した出来事とは・・・。

中国には基本的人権が元々ない国と聞いている。そのような中、若者が立ち上がったことは驚きでもある。その輪が世代を超えて今までにない広がりを見せたという。

先生は自分の家を解放し中国人の人権派の人たちを助け援助をされているという。学問だけではなく良い働きをされている事を知った。

中国の人たちの一人ひとりと向き合った交流をされている事は私たちの日中友好運動に示唆を与えてくれた。

一人でも多くの人に聞いて貰いたい”良い講演会”でした。

沼津市日中友好協会

相談役 森本 明